

# 令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣養老高等学校

学校番号 25

## I 自己評価

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。	
2 評価する領域・分野	<b>学校運営</b>	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的な回答（「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の和）が多く、生徒用のその平均（%）は92%、保護者用の平均は85%であった。昨年より生徒用で6%、保護者等用で4%上昇した。</li> <li>肯定的な回答が70%を下回った項目は無かった。</li> <li>肯定的な回答が特に多かった項目</li> <li>【生徒】「入学できてよかった」（97%）「熱心に指導する先生が多い」（97%）「モラルやマナーを身に付けさせる」（99%）「安全衛生面に配慮、安全指導」（98%）「資格取得など明確な目標をもたせている」（97%）</li> <li>【保護者等】「新型コロナウイルス感染症対策」（91%）「一斉配信メールの有効活用」（96%）</li> <li>肯定的な回答が少なかった項目</li> <li>【生徒】「校舎がきれいである」（77%）</li> <li>【保護者等】「保護者の悩みや相談に適切に対応」（76%）「教職員は働き方改革に努めている」（74%）「ボランティア活動の機会を提供」（76%）</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業改善に努め、生徒自らが学び考える授業を実践し、主体的に学習に取り組む生徒を育てる。</li> <li>キャリア教育を推進し、生徒の自立のために必要な取組を積極的に実践し、魅力ある学校づくりに努める。</li> <li>他者を尊重し、生命を大切にする教育を実践し、規範意識や品位を備えた心豊かな生徒を育て、“人権文化あふれる学校”づくりに努める。</li> <li>地域連携に加え国際理解教育を推進することにより、コミュニケーション能力とグローバルな視野を身に付けた生徒を育てる。</li> <li>部活動、生徒会、農業クラブ、家庭クラブ、商業クラブ、Sクラブで生徒が主体となる活動を創出し、活力ある学校づくりに努める。</li> </ol>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ol style="list-style-type: none"> <li>各教科・学科単位の会議、分掌の組織</li> <li>企画・職員会議と各種委員会 他</li> </ol>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ol style="list-style-type: none"> <li>教科、学科、分掌での立案と実践</li> <li>地域の方、支援していただける方の意見等</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>日常の実践活動及び進路実現</li> <li>学校運営協議会委員、PTA、学校関係者の意見</li> </ol>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ol style="list-style-type: none"> <li><b>キャリア教育の推進</b> 基礎トレ講座、ドリカム講座、進路後援会 意見発表会、学習成果発表会、キャリアガイダンス キャリアパスポート インターンシップ（中止）、ビジネスマナー講座（中止）</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>進路状況、競技会、コンクール、発表会、資格取得の結果</li> <li>学校運営協議会委員、PTA、地域住民の意見</li> <li>職員、生徒の意見</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>Ⓐ B C D</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li><b>主体的に取り組む生徒の育成</b> 地域や企業・大学等と連携した研究活動 出前授業や高校見学会を生徒が担当</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>A Ⓑ C D</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li><b>心豊かな生徒の育成</b> 朝読書、弁論大会、人権教育（ひびきあい活動） 遠足児童との交流、ボランティア活動</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Ⓐ B C D</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li><b>国際理解教育の推進</b> ユネスコスクール加盟 農業高校生海外実習派遣事業（中止）</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>A B Ⓒ D</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li><b>活力ある学校づくり</b> 部活動、生徒会活動、MSリーダーズ活動、 農業クラブ活動、家庭クラブ活動、商業クラブ活動、Sクラブ活動</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>A Ⓑ C D</li> </ol>
11 成果・課題	<p>○休校中の家庭学習課題の提供や再開後のオンラン授業の実施などコロナ禍においても学習を止めることはなかった。また毎朝の検温チェックなど感染症対策を講じながら、大養祭をはじめ種々の学校行事や教育活動を適切に行うことができた。</p> <p>○地域資源を活用した商品開発や持続可能な農業を目指した取り組みを推進し、積極的に情報発信することができた。（新聞掲載、計56回。その他、テレビ取材等。）</p> <p>▲教職員の働き方改革プランの基本目標（時間外月45時間未満）が達成できなかった。</p>	
	<p>総合評価</p> <p>A Ⓑ C D</p>	

12 来年度に向けての改善方策案
------------------

- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、地域と連携した活動を推進するとともに、総合学科と農業科併置のメリットを生かした研究活動が展開できるよう工夫をする。
- ・ICT機器の活用法、学校行事や部活動の精選等を検討し、教職員の働き方改革を推進する。

2 評価する領域・分野	教務部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	多面的な学習評価、一人一人の能力に応じた指導、教科による習熟度別や少人数授業が学習理解度向上につながる、専門性の高い科目に対しての学習指導に関わる項目について80%以上の生徒が肯定的評価としている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1)基礎的な知識・技術の定着に向けた家庭学習時間増加の推進 (2)課題解決学習の充実に向けた総合学科、農業科の連携推進 (3)ICT機器を活用した授業展開の具体的な取組み目標と具現化に向けた指導方法の研究 (4)生徒のための教育活動、過去にとらわれない働き方改革を踏まえた学校運営改善への提案	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	教務部を中心に各教科・学科、進路、学年が連携し全校体制で取り組む。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
・自主学習ノートの実施および基礎トレ学習の推進 ・ICT機器の有効な活用の研究により「わかる授業」づくりと「生徒が主体的に学ぶ授業」の実践など各教科の授業特性を踏まえ、授業改善の工夫、教員研修の実施	・保護者生徒による学校改善アンケート ・生徒による授業アンケート ・研究授業における参観者との授業研究 ・指導と評価の年間計画の振り返り	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1)基礎的な知識・技術の定着に向けた家庭学習時間増加の推進 ①自主学習ノートの取組とやり切らせる指導の徹底 ②各教科、科目における宿題、長期休暇等における課題の作成 ③進路指導部との連携による取組み効果の分析	・保護者、生徒によるアンケート調査結果の分析 ・授業参観を通して教員同士の情報交換ができたか ・指導と評価の年間計画への記載事項の内容が目標に沿っているか ・ICT機器の有効な活用について教員同士の情報交換ができたか	A B C D
(2)課題解決学習の充実に向けた総合学科、農業科の連携推進 ①専門科目授業におけるプロジェクト学習の充実 ②本校創立百周年事業に向けた「生徒によるプロジェクト」の取組 ③互いの取組の理解と連携内容の模索と提案 ④総合学科と農業科合同の学習成果発表会の開催		A B C D
(3)ICT機器を活用した授業展開の具体的な取組み目標と具現化に向けた指導方法の研究 ①各教科でICT機器を有効活用について積極的に話し合い実践し、授業改善に取り組む ②生徒指導との連携による人権文化あふれる学校づくりに配慮した目標設定とわかる授業、力をつける授業の推進 ③研究授業と公開授業による、教員同士の授業研究および情報交換 ④生徒による授業評価の実施と、振り返りをもとにした目標設定		A B C D
(4)生徒のための教育活動、過去にとらわれない働き方改革を踏まえた学校運営改善への提案 ①令和4年度入学生に向けたカリキュラムの研究と運営方法 ②学校行事の見直しと変更 ③会議の削減と会議時間短縮 ④組織で取り組む指導と指導者の意識改革		A B C D
11 成果・課題	総合評価	
▲(1)年度初めの休校期間により、家庭での学習が余儀なくされ、課題に取り組む等の時間を確保し学習する姿勢が一部の生徒については有効であったが、テスト等の結果とともに分析すると多くの生徒または学年においては、その成果は十分とは言えない。 ○(2)持続可能な取組みとして地域との連携を多様化させ、本校生徒の活躍の場を広げられた。人前で堂々と話や内容説明ができ、主体的に学ぶ生徒が増えて自信を付けている。一方、消極的な生徒への手立ても考えていかねばならない。 ▲(3)教職員のICT機器の積極的な利用が定着して、授業展開に変化も見られている。その取組みから、生徒に何をどのように学ばせ、どのような力を身に付けさせるのかを目標設定し、授業改善に努めなければならない。 ○(4)年度当初の行事から大幅に見直し行事変更をしながら進めた。特に進路関係の行事は削減することをせず、継続的に進路指導をすることが進路実現につながった。今後は働き方改革を視野に入れて、一層行事の在り方や内容について十分な検討を進めていきたい。	A B C D	
12 来年度に向けての改善方策案		
(1)基礎的な知識・技術の定着に向けた日常の家庭学習時間の増加と定期考査週間の学習に対する意識改善 (2)課題解決学習の充実と実践に向けた総合学科、農業科の連携推進 (3)ICT機器と一人一台のタブレットを活用した授業展開の具体的な取組みの研究		

(4) 学校行事の在り方の検討

2 評価する領域・分野	生徒指導部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	前年度と比較して全項目で肯定的回答率が上昇した。項目「いじめや差別の対応」の肯定評価は生徒91.5%（前年度85.8%）、保護者は85.8%（前年度75.8%）であった。相談数や認知数は多かったが未然防止に努め、事案は芽のうちに対応したことで高評価が得られたと分析する。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上 (2) 自らの生命と健康および人権の尊重 (3) 安全・安心な学校生活の実現 (4) 教育相談の充実・チームサポートによるスクールカウンセリングの展開 (5) 問題行動防止と充実した高校生活実現のための全職員が連携、指導を行う	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	生徒指導部と学年、学科との連携体制 生徒指導委員会、いじめ防止等対策会議、人権教育委員会等	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) MSリーダーズ活動や委員会活動を通じた規範意識の向上(2) 全校統一人権LHRの取組(3) 交通安全啓発活動(4) 教育相談活動(5) 生徒支援体制の充実	生徒・保護者のアンケート結果 遅刻指導、交通事故、問題行動数による評価	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上 ・身だしなみ指導の実施と学年会との連携した事後指導の徹底 ・コミュニケーション能力(挨拶・言葉遣い等)、マナーの指導 ・外部講師による情報モラル講話の実施と携帯電話のマナー指導 ・MSリーダーズ活動を通じた規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事の実施状況や生徒の様子、感想等</li> <li>・MSリーダーズ活動後の生徒の成長</li> <li>・身だしなみ違反や問題行動件数</li> <li>・生徒や保護者のいじめに関する調査</li> <li>・スクールカウンセラーの活用状況</li> </ul>	A (B) C D
(2) 自らの生命と健康及び人権の尊重 ・コロナハラスメントの防止 ・生活アンケートによるいじめの実態把握と早期の指導 ・全校統一人権LHR ・MSリーダーズによる人権啓発活動		A (B) C D
(3) 安心・安全な学校生活の実現 ・交通安全強化指導の実施 ・自転車点検、交通安全講話の実施 ・MSリーダーズによる交通安全啓発活動		A (B) C D
(4) 教育相談の充実、チームサポートによるスクールカウンセリング ・生徒指導ORを通じた1年生の適応指導の充実(宿泊研修は中止) ・教育相談週間や教育心理検査等の実施による生徒理解 ・SC、子ども相談センターの活用		A (B) C D
(5) 問題行動の防止と充実した高校生活実現のための援助指導 ・「あたたかい言葉がけ」等の継続による倫理観、道徳観の育成 ・生徒への支援体制の充実(学年会、職員会議等で情報共有と連携)		A (B) C D
11 成果・課題	<p>【人権教育】年間学習指導計画に人権教育からの観点とその振り返りの欄を設定し、各教諭が毎時間の授業の中で生徒の人権感覚を育成する取組ができた。人権文化溢れる学校づくりのための全校統一人権LHRでは「コロナ禍における差別について考える」等のテーマもあり、各担任が人権に関する理解を深め、内容を工夫して準備することで、本校が目指す生徒像の具現化を図るための道徳教育を推進することができた。</p> <p>【未然防止】いじめを見逃さないことが大切であるが、それ以前の未然防止が重要であると考え、ハラスメント防止に注力した。「あたたかい言葉がけ」や「良いことみつけ」を一過性のイベントとせず、学級日誌から良い事例をあげて全校生徒へ紹介するなど、年間を通じて日頃から「相手を思いやる心」を育成する意識を各担任がもち、教室内の落ち着いた生活環境をつくるクラス運営が行なわれた。</p> <p>【情報のモラル】今年度は、弁護士監修の「情報モラル3箇条」を作成することができた。しかし、新型コロナウイルス感染症のために休校が長く続き、新入生対象の情報モラル指導が遅れたことで、ネット上のトラブルを未然に防げず、人間関係のトラブルに発展した事案が発生してしまった。今年度は計画していた情報モラル及びインターネットとの付き合い方を学ぶ取組と啓発活動を展開できなかったため、来年度は生徒会と連携し、内発的にデジタルデバイスを上手に活用する力の育成をめざしたい。</p>	総合評価 A (B) C D
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>① コロナ禍における不規則な生活リズムになった高校生は66%、スマホ等を触る時間が2時間以上増は60%（立教大学調査）。生徒に基本的な生活習慣の確立を全教職員がチームとなって生徒の指導をしていきたい。</p> <p>② 来年度もコロナハラスメント防止に注力が求められるが、生徒主体の積極的な生徒指導も展開していきたい。</p>		

2 評価する領域・分野	進路指導部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	1) 適切な進路情報の提供、2) 将来の進路希望に沿った支援・助言、の2項目ともに、8割以上の生徒・保護者から肯定的な評価を得ており、前年度と同様、高い支持を受けている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 専門教育を生かした進路指導と基本的ソーシャルスキルの定着 (2) より高い進路目標を目指させる指導、地域で活躍できる人材の育成 (3) 外部教育力、地域連携、キャリアパスポートを活用した自立意識の涵養、個性を生かす進路指導	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	学年団を中心としたキャリア教育実践を進路指導部がサポートする体制 学年・教科・分掌の横断的連携体制 地域企業、外部人材との緊密な連携や地域社会との協同体制 働き方改革の観点からの行事精選、仕事のスリム化・みえる化	
6 目標の達成に必要な具体的な取組 (1) 基礎トレ、朝トレ、キャリアガイダンスの充実 (2) ドリカム小論文指導講座、面接指導、志望理由書作成指導 (3) 外部教育力の活用、内部人材の活用 キャリアパスポート、各種アンケートの活用	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標 1) 就職内定率、進学合格率 2) 難関志望者動向 3) 事後アンケート、感想・作文評価 進路アンケート	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 基礎トレ：基礎学力・一般常識の習得に主体的な取組体制を作った。3年前期は全クラスがSPI対策や基礎学力の増強を目的に朝トレを実施した。 キャリアガイダンス：年間を通じて様々な進路ガイダンスや体験学習、講演会を実施。職業観や勤労観、人権意識を高め、進路意識や公共心、他者を尊重し感謝する姿勢を育むことができた。	(1) 基礎トレや朝トレに取り組む姿勢・定着度 各種ガイダンス前後の生徒の変化・成長	Ⓐ B C D
(2) ドリカム講座：難関校志望者が切磋琢磨する環境を整えた。小論文指導を通して、自己表現力を高め、課題解決に向けた取組を促した。医療看護系等の難関校にチャレンジできる体制を築いた。基礎力診断：新規教材の導入、実力テストの評価体制の改善により長期的視野に立った計画的・継続的な学習体制を作った。	(2) ドリカム講座への参加意欲・態度、成果 進学補習への参加者数・意欲、進学・就職に対応できる基礎学力の増強	A Ⓑ C D
(3) 外部教育力の活用：地域社会と連携し、講演会や事業所展、事業所見学、インターンシップ、職業体験／模擬授業体験講座を実施。PTAや卒業生と連携し、面接指導や語る会を実施。外部講師（大胡田誠弁護士）を招き、全校進路講演会を開催し、人権意識と進路意識の向上を図った。 事業所訪問：コロナ予防のため事業所訪問の代替として電話連絡を重ねて本校教育活動への理解を促し、求人確保した。	(3) 生きる力、職業観・勤労観、進路意識の向上 外部人材、地域社会との協力体制・信頼関係の強化 本校指定求人への質的・量的向上	Ⓐ B C D
11 成果・課題	自己肯定感・有用感、大養ブランドとしての自尊心が高まり、基礎学力・自己表現力の強化育成が実り、就職希望者は11月初旬に100%内定を達成した。ドリカム講座は17名が半年間継続的に受講し論文作成能力を向上させた。その成果として国公立学校受験者が増加し、医療看護系へここ数年間安定して十数名ずつ輩出できるようになった。総じて、進学・就職活動を通して自己表現力や基礎学力を高め自立心を育み、進学・就職とも大半の生徒が第一志望への合格を果たした。 次年度への課題として、将来への展望をもった向上心を喚起し、家庭学習習慣を確立し1年次から高い進路目標を掲げて着実な努力を継続できる人材育成を図りたい。2年次はより高い進路志望を実現する具体的な道筋を主体的に考えて行動させたい。	総合評価 Ⓐ B C D
12 来年度に向けての改善方策案 ・「大学入学共通テスト」や「学びの基礎診断」を視野に、SPI等に対応できる「確かな基礎学力」の養成と並行して難関校を目指す論文表現力を育成するドリカム講座の推進。 ・2年次教材『高校生のための進路プラン』の導入による進路意識の涵養や動機付け等の有効活用。 ・3年間の段階的な成長に合わせた繋がりある各種キャリア教育行事の計画的運用による生きる力の伸長。進路関連の各行事を繋ぐ軌跡として自己の成長を振り返り、進路選択を主体的に判断できる材料となる『キャリアパスポート』の組織的かつ効率的な運用方法の確立。 ・働き方改革の観点から進路関連行事の一層の効率化、スリム化を図る。		

2 評価する領域・分野	総合学科部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	該当なし		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 地域及び周囲から信頼され、地域社会に貢献できる有為な人材の育成に努める。 (2) 主体的に学習し確かな学力を身に付け、自己実現に向けて努力する資質を育成する。 (3) 科目選択についてのガイダンス・カウンセリングの充実を図る。 (4) 地域連携やボランティア等を通して、豊かな人間性を育む。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	(1) 企画委員会、職員会議、総合学科部会での検討 (2) 他分掌、学年会との連携		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 校内販売会 (2) 学年弁論大会、学習成果発表会 (3) 科目選択説明会、科目選択カウンセリング	(1) 事後アンケート (2) 生徒の感想 (3) 科目選択変更者の人数		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
(1) 校内販売会で、ビジネス系列が鶴舞屋さんと共同開発した「鶴舞美そぼろ」、一太郎さんと共同開発した「ジェノフランク」を販売した。 (2) 春休みの間に自分自身が身近かに感じる問題点などを、一人一人が考え、クラス弁論大会を行い、クラス代表者が学年弁論大会で発表した。学習成果発表会では、各系列で2年間学習した内容を発表した。 (3) 1年次生には、「科目選択説明会」を実施した。また、3年次生のE群の授業を見学して科目選択に役立てた。 2年次生には、「総合的な探究の時間」に、科目選択の説明を行った。	販売実績  生徒の取組の仕方  科目選択の仕方	A <input checked="" type="radio"/> B C D  A <input checked="" type="radio"/> B C D  A <input checked="" type="radio"/> B C D	
11 成果・課題	○ビジネス系列の商品開発で、一般の人に販売する商品を自分たちで試行錯誤の結果、作り上げることができた。 ○学年弁論大会は、発表者の考えを熱心に聴くことができた。 ▲ビジネス系列の商品開発で、農業科とのコラボをもっと深くしたい。		総合評価  A <input checked="" type="radio"/> B C D
12 来年度に向けての改善方策案 3年次生での商品開発に向けて、2年次生から時間をかけてじっくり考えさせる。			

2 評価する領域・分野	農業部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	アンケートによる分析は実施していない。 新聞報道等により地域の方々の本校生徒に対する期待の声は大きい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 持続可能な循環型社会に向けて環境・農業教育を推進し、世界規模で考え、足元から行動する学校として地域の拠点となるグローバル・アグリハイスクールをめざす。 (2) 人権感覚を養い、心の教育、命の教育、食農教育を推進する。 (3) 経営能力や奉仕精神の育成に重点を置き、基本的な農業技術能力と応用力を持った地域社会人を育成する。 (4) 地域貢献、地域連携、地域共生、地域資源の活用を推進する。 (5) 幼保小中高などに対し、農業教育活動の普及、支援を推進する。 (6) 生徒一人一人を一層輝かせ、幸せにつなげる進路指導をすすめる。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	(1) 職員会議、農業部会、科長会、各学科会議 (2) 地域企業との連携や地域社会との協同体制	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)環境教育の推進 (2)心の教育・いのちの教育・食農教育の推進 (3)農業技術教育の推進 (4)地域に根ざした教育の推進 (5)農業教育の普及活動の推進 (6)進路指導の充実	事後アンケート、各種メディア等の報道	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 耕畜連携を推進し、乾草残渣・牛糞などの堆肥化と耕種での有効活用を進めた。水田での田んぼアート制作・プロジェクトマップ実践は、ホームページ等で情報発信した。飼料園を活用した自給粗飼料生産等持続可能な循環型農業生産を一步進めた。	事後アンケート 各種イベント等における地域の声 職員、生徒の意見 各種メディア等の報道	A ② C D
(2) 栽培管理、生育調査、加工品作り等科毎に野菜・水稻を中心にした実践的な授業展開を行った。また、「生命を育み、絆と未来をひろげる」のスローガンを掲げ、小学校、幼稚園児童の交流受け入れ、農福連携（特別支援学校との交流）、動物供養動など多様な心を育てる学習を推進した。		A ② C D
(3) 作物部門ではお米のJGAP認証継続審査を受け、他の作目でも取得に向けての意識が高まった。教職員向けや生徒向けに「スマート農業」研修会を実施し、最新の農業技術について情報共有した。		A ② C D
(4) 新型コロナウイルス感染防止に向けた施策の中で、学習活動の場も大きく制限を受け、従来のように活動できなかった。その中でも、創立100周年記念事業に向けた「清酒プロジェクト」、「美濃柴犬の種の保存」等の活動を展開することができた。		A ② C D
(5) 新聞、JA広報誌等を通じて生徒の実習活動の様子を地域に公開した。地域への農業学習内容の普及PRの場である「大養祭」は中止となり、一般向けの各種販売会も自粛した関係で、直接生徒自身が地域の方にPRする場面が設定できなかった。		A ② C D
(6) 西濃農林事務所と連携し、管内農業現地巡回学習会やスマート農業研修会を実施し、新規就農や担い手育成に向けての意識付けを高めることができた。進路指導部と連携し、小論文指導を充実させたが、国公立大学への進学者を出せなかった。		A ② C D
11 成果・課題	(1)有機減農薬栽培への転換 → 堆肥化施設の整備計画等の推進 (2)幼・小児童等の受入継続 → 学習効果と計画的な受入 (3)生産物の付加価値定着を図る → PR戦略と流通実践 (4)新商品開発活動等の定着 → 連携内容を一層PR、関連業者との連携強化 (5)ファーマーズマーケット等への出荷 → 更なる販路拡大を捉え流通業者の模索と交渉 (6)後継者育成 → 後継者育成の実践場づくり。進学へのモチベーション維持活動	総合評価 A ② C D
12 来年度に向けての改善方策案 (1) 学科改編及び新学習指導要領への移行を踏まえた各科3本柱の見直しや農場の将来構想の構築 (2) 地域資源及び農場生産物を活用した生徒の地域活性化と流通実践への取組 (3) ホームページの定期的な更新と地域メディアとの連携によるPRの充実 (4) 後継者育成活動の充実と地域技術交流体制作り (5) 専門性を生かした進路先確保と進学意欲を積み上げる指導、国公立大学への進学者輩出を目指す		

2 評価する領域・分野	寮務部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	(1) 食材費高騰・エアコン完備による寮費の値上げについて (R1年度) ・他の寮に比べても格安な費用で運営しており、十分な理解が得られた (2) 新型コロナ対策と寮運営について ・寮における新型コロナ対策について理解いただき、すべての寮生について学校再開とともに帰寮することができた	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 社会人・組織人として求められる倫理観、人権感覚、規範意識、所属意識、コミュニケーション能力の育成につながる寄宿舎教育の推進。 (2) 規律ある生活と学習を柱とし、日課や行事を通して自律的で調和のとれた生徒を育成する。 (3) 農業・産業の後継者・経営者育成の関わる取組の充実を図る。 (4) 校内各分掌と連携し、寮生の自己理解と進路実現を援助する。 (5) 地域連携活動、部活動、ボランティア活動等、地域貢献に関わる活動に積極的に参加できる環境を整える。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	(1) 寮担当教頭、舎監担当教員、栄養士、給食支援員、事務アシスタントが連携して指導を行う。 (2) 研修生・研修内容に応じ、学年・学科・分掌・部活動等の協力を仰ぎ研修舎監として指導を依頼する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 舎監・研修舎監による訓話等の指導 (2) 給食、衛生・健康管理、食育等の支援・指導 (3) 点呼・健康管理・清掃・学習・週番等、規則正しい日課の指導 (4) 寮生委員会による自治改善活動の指導・監督 (5) 各種研修の受け入れと指導	(1) 寮生総会 (2) 舎監会議・舎監日誌 (3) 寮生保護者会 (4) 食事に関するアンケート	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 新型コロナウイルス感染対策 県や国のガイダンスに従い、1人1部屋、食事提供方法の改善、対策日課等を整備し、保護者との連携を密にして登校日の全日開寮を行うことができた。日課や寮規則についても感染対策を徹底し、これまで以上に規律ある生活を送るとともに、1人1人の危機管理意識を高めることができた。	行動観察 保護者連絡 情報交換	① B C D
(2) 寮行事の企画運営と寮生委員会活動。 入寮式、寮生総会、スポーツレクリエーション、大掃除、納涼会クリスマス会、寮生菜園、動物飼育など、新型コロナウイルスに対応し、三密を避けた方法・内容で企画・実施することができた。企画・運営は、各寮生委員会中心となり積極的に行った。	寮生総会 寮生委員会記録簿 情報交換	A ② C D
(3) 寮研修 今年度、宿泊を伴う寮研修に関しては、新型コロナウイルス感染対策のためすべて中止した。来年度以降の寮研修の在り方について協議を進めている。	舎監会議 職員会議	A B ③ D
(4) 食育・人権教育・危機管理教育 食文化や地産地消についての掲示教育や、食品残差の軽減・食中毒の予防、災害時炊飯訓練、集団感染の予防、寮生菜園の活用など、集団生活に関する指導を通し、寄宿舎特有の教育を推進することができた。	行動観察 情報交換	A ④ C D
11 成果・課題	(1) 適切な新型コロナ対策の継続により、安全な寮運営を行うことができた。 (2) コロナ禍にあっても、適切な寮行事によって、寄宿舎教育を推進することができた (3) 寮生委員会や縦の連携により、寮の自治や組織運営の (4) 施設設備の老朽化が進んでいる (5) 寮の魅力の発信と寮生の確保 (6) 農業経営者育成寮として、柔軟な寮研修の検討と働き方改革の調整	
12 来年度に向けての改善方策案 (1) 適切な感染症対策の継続 (2) 継続的な寮の施設改修・修繕・環境整備 (3) 柔軟かつ、働き方に配慮した寮研修の検討 (4) 遠隔地寮生の確保に向けた対応 (休日の部活動・実習等) (5) 寮の環境を生かした魅力的かつ自主性を養う寄宿舎教育の推進		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年 1月27日（木）

### 【意見・要望・評価等】

- ・アンケートを見て全体的に肯定的な意見が多くなっており、改善されているのがよくわかった。新型コロナウイルスの感染拡大に伴いボランティア活動が制限され、ボランティアの大切さを教える場がなかったので、今後はできるようにしてほしい。
- ・コロナ禍においてもできる限りの実践をしており、大変さが伝わってきた。
- ・生徒発表や自己評価資料を拝見して、学校の取組がよく分かった。地域だけでなく専門の方からも協力を得て、成果が現れている。これも教職員の指導のおかげであると思った。
- ・生徒の発表はどれも素晴らしく感動した。未来は明るいと感じた。観光の町として養老町の活性化、町おこしに生徒の力をぜひとも借りたいと思った。
- ・登校できない生徒への配慮や支援をこれからもよろしくお願ひしたい。
- ・本校の様々な活動を学校プロモーション事業としてまとめ、それを西濃管内の住民に周知してほしい。
- ・企業や行政等との協働により、ふるさと教育の更なる推進をお願ひしたい。